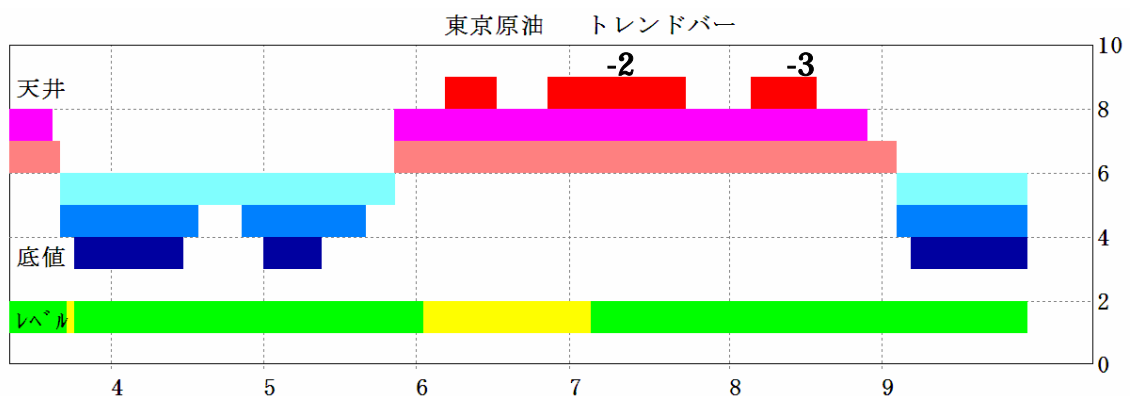


トレンドバーの活用

トレンドバーの見方

トレンドバーはトレンドの状態を色で表現したものです。赤色系のバーは上昇トレンド、青色系のバーは下降トレンドを表しています。濃い赤色を天井圏、濃い青色を底値圏と呼んでいます。レベルの緑色はトレンドのはっきりした相場、黄色はトレンドのはっきりしない相場を表しています。



下降トレンドの勢いが強く、底値圏を形成しています。この中に底値があります。底値圏が繰り返されているのは、1番底、2番底という捉え方をします。

下降の勢いが弱くなり底値圏を抜けましたが、短期トレンドと長期トレンドは下降トレンドを示しています。

短期トレンドは上昇トレンドに転換しました。長期トレンドはまだ下降トレンドです。(上昇転換するか、戻りになるか)

長期トレンドも上昇トレンドに転換し、短期、長期ともに上昇トレンドになりました。

上昇トレンドの勢いが強く、天井圏を形成しています。この中に天井があります。天井圏が繰り返されているのは、1番天井()、2番天井(-2)、3番天井(-3)という捉え方をします。

上昇の勢いが弱くなり天井圏を抜けましたが、短期トレンドと長期トレンドは上昇トレンドを示しています。

短期トレンドは下降トレンドに転換しました。長期トレンドはまだ上昇トレンドです。(下降転換するか、押し目になるか)

トレンドナビの<展望>のコメントに出てくる**短期トレンド**とは と 色のバーの変化のことです。また、**長期トレンド**とは と 色のバーの変化のことです。

トレンドバーと売買シグナル

トレンドナビで表示される売買シグナルは、相場が転換する兆候が現れたポイントを矢印で示したもので、RSI（相体力指数）やMACD、ストキャスティックなどのテクニカル指標や他の分析手法を基に分析したものです。

売買シグナルは完璧に相場の変化を予測できるわけではありません。しかし、トレンドバーを併用すればより効果的な売買シグナルの活用が可能です。例えば、強気（上昇予想）シグナルが出た時のトレンドバーの状態が、底値圏なのかそうでないのか、また、1番底か2番底かでシグナルの意味がかなり違ってきます。

シグナルが重要な意味をもつポイントは、トレンドバーの状態が

- （１）底値圏（天井圏）を示している。
- （２）底値圏（天井圏）が、1番底（天井）より、2番底（天井）3番底（天井）である。
天井圏が連続して形成される回数が多いので、2番天井と1番底が同じ程度の重要性を持っています。
- （３）底値圏（天井圏）を形成している期間が長い状態である。1ヶ月以上継続しているようであればかなり重要である。

トレンドバーの状態がトレンドの転換期（ や 色が1本だけの状態。前図の や の状態）にある場合も重要です。その時には「押し目・戻り」や「トレンド形成」などのシグナルが参考になります。

トレンドバーと売買戦略

トレンドバーの変化は売買戦略の策定にも活用することができます。

- （１）初めて短期トレンドと長期トレンドが上昇トレンドになった時に、買い方針に転換する。初めて赤色が2層目になった時（ から へ変化）（売り方針は逆）
- （２）初めて天井圏が形成され始めたときに、買い方針に転換する。初めて赤色が3層目になった時（ から へ変化）（売り方針は逆）
- （３）同じ2段目赤の上に3回以上の天井圏が現れた時、同じ2段目青の下に2回以上の底値圏が現れた時は、中期トレンドの天井・底になっていることが多い。
- （４）赤1段、青1段が4～5日程度で反転した時。
- （５）天井圏（赤3段）、底値圏（青3段）が20日以上続いた時。
- （６）2段以上の状態が50日以上続いている時で、天井圏・底値圏になっている時。
- （７）トレンドバーが一度に2段階以上変化した場合はオーバーシュートの可能性があるの

で注意する。逆方向に動くことがよくあります。

(8) 天井圏・底値圏での逆張りは因果玉にしないよう損切り値を設定しておく。(直前の高値・安値またはストップ値幅を目安にする)

シグナルの特徴

長期・短期・超短期

16種類あるシグナルは、示唆するトレンドに関して長期トレンド、短期トレンド、超短期トレンドのものがああります。

長期シグナル

天井圏・底値圏、長期売買、トレンド形成

短期シグナル

MACD、ストキャスティック、AD、BA、RSI、押し目・戻り、ボックス相場、短期売買

超短期シグナル

超短期売買、パーセントR

その他

キーリバーサル、ローソク足、逆行現象

[順バリ系システム]

ボックス相場、トレンド形成、押し目・戻り、パーセントRなど

[逆バリ系システム]

MACD、天井圏・底値圏、平均方向性指数、トレンドバー、短期など

[途転システム]

RSI、長期、短期など

シグナルの出る早さ

天井圏や底値圏で出るシグナルのうち、出る順番は決まっていますが、一番早く出る可能性が高いのは「超短期売買」で、次が「MACD」です。次に「ストキャスティック」、「AD」、「BA」などです。

シグナルの関連性

「天井圏・底値圏」は、「MACD」のシグナルを少し省略したものに、プラスアルファしたもので、出る回数は少ないですが天井・底をよく捉えます。

「BA」はトレンドバーの天井圏や底値圏が終了した時であり、かつ、レベルが緑色の時に出来ます。2番底（天井）3番底（天井）の転換時はかなり有効です。

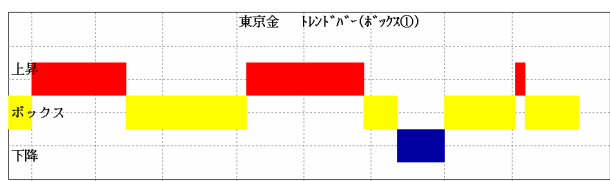
「AD」は、「BA」と同じ分析手法に基づいていますが、「BA」より早くシグナルが出ます。

「超短期売買」は、「パーセントR」のシグナルを少し省略したもので、かなり相場のピークで出ます。

「トレンド形成」は、「RSI」のシグナルを少し省略し、相場転換期向けに特化したものです。

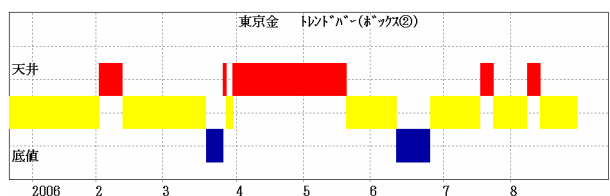
「ボックス相場」は、天井圏・底値圏以外でシグナルが出ます。相場の転換期に有効です。

トレンドバー(ボックス)



トレンドバー・ボックス は、建玉をするポイントを探す場合に有効です。相場は左図の黄色い状態でトレンドが形成または転換する機会が多い。従って、黄色の状態にある時に、RSIやストキャスティックなどの指標を分析し、建玉のポイントを探します。トレンドナビの売買シグナルでは、ボックス相場（ボ）や、押し目・戻り（押）RSI（RS）、トレンド形成（形）などが参考になります。

トレンドバー(ボックス)



トレンドバー・ボックス は、仕切りをするポイント（利食いポイント）を探す場合に有効です。左図の赤色や青色の状態でもトレンドが転換する機会が多い。従って、赤色や青色の状態にある時に、MACDやパラボリック、ストキャスティックなどの指標を分析し、仕切りのポイントを探します。トレンドナビの売買シグナルでは、MACD（MD）や平均方向性指数（AD）、トレンドバー（BA）天井・底値などが参考になります。

また、積極的な建玉ポイントとしても利用できます。